

## 適切に木を切り、新しい木を育てる森林サイクル

## SDGsラジオを讀んでみよう！

みなさんは「木を切ること」に、どんなイメージがありますか？

地球環境に良くないというマイナスなイメージを持っている人が多いかもしれません。

でも実は、木を切らないと、地球にとって良くないこともあるんです。

木は光合成によって地球温暖化の原因になる二酸化炭素を吸収しますが、年老いた木は光合成をあまりしなくなるため、適切な時期に木を切って、新しい木を育てることが必要です。

そこで、マンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」は、マンションを建てる時に積極的に木材を使い、新しい木が植えられるようにしています。

成長した木を切って、木材として有効に使い、新しい木を植えて、地球を少しずつ健やかに。

三菱地所レジデンスは日々、そんな地球にやさしいサイクルを回しています。

みなさんも、このサイクルを回すためにはどうすればいいか？

考えてみましょう。

## SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



がぞうさんしょう しんりん  
画像参照：森林のイメージ



がぞうさんしょう みつびしじよ かんきょうふかていげん とく  
画像参照：三菱地所レジデンスの環境負荷低減の取り組み  
(みつびしじよ こうしきホームページ  
(三菱地所レジデンス公式HPより)

「木を切る」と聞くと、環境破壊の面から悪いイメージを持っている人が多いと思います。しかし、実は木を「適切なタイミングで切ること」は、地球にとってとても重要です。年を取った木は光合成をあまりしなくなり、二酸化炭素をうまく吸収できなくなってしまいます。そういったことから、「木を切ること」は決して悪いことばかりではなく、適切な時期に木を切って森林を元気に保つことは、地球の環境を守り、私たちの未来のために大切な行動なのです。

三菱地所レジデンスでは、マンションを建てる時に積極的に木材を使い、新たな木が植えられるようにしています。成長し適齢期を迎えた木を切って、木材として有効に使い、また新しい木を植える。三菱地所レジデンスが回そうとしている「この地球にやさしいサイクル」が、森林を少しずつ元気にし、CO2を吸収し続けることで地球環境を健やかにしています。また、このCO2の吸収源を確保する取り組みのほかに、住んでからのエネルギー消費量を削減する「ZEH-M Oriented(ゼッチ・マンション・オリエンテッド)」と呼ばれる住まいをつくったりなど、環境に配慮したさまざまな取り組みを行っています。これらを通じて三菱地所レジデンスは、2030年までに「CO2排出量を50%削減(2019年比)すること」を目指しています。

## キーワード

## 光合成

植物が太陽の光を使って、自らの栄養をつくることです。植物は二酸化炭素と水で栄養と酸素をつくり出します。これによって植物は成長し、私たちが呼吸するための酸素もつくられます。

## 木の適齢期

木は樹齢が40年を過ぎるとCO2吸収率が低下するとされています。木の種類にもよりますが、一般的に20年から40年ほど育った木が伐採の適齢期とされています。

## ZEH-M Oriented(ゼッチ・マンション・オリエンテッド)

マンションでエネルギーを少なく使い、環境に優しくする工夫がされた建物のことです。住んでいる間の光熱費も抑えられます。

## 対象ゴール



## みなさんにできること！

森林がずっと元気であり続けるためには、どうすればいいか、みなさんで話し合ってみましょう。

## おさらい

- 年老いた木は光合成をあまりしなくなる。
- 適切な時期に木を切って、新しい木を植えることが地球環境を守るためにはとても大切。
- 三菱地所レジデンスは木材を積極的に使い、また、新しい木を植えることで「森林の良いサイクル」を回している。

## メモ



SDGs ラジオ